

会 議 録

会議の名称	第2期 小金井市地域自立支援協議会 (第13回)
事務局	福祉保健部 障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成23年4月26日(火) 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】 伊藤良子委員(会長)、矢野典嗣委員(副会長)、山田満里子委員、 山田正市委員、吉沢幸子委員、中村悠子委員、斎藤修委員、 富澤淳一委員、大久保昌弘委員、枡本敬子委員、森田純司委員、 堀池浩二委員</p> <p>【事務局】 福祉保健部長 佐久間育子 障害福祉課障害福祉係長 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係 川村昌弘 地域生活支援センターそら 施設長 熊倉弘子、伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

第 2 期 第 13 回小金井市地域自立支援協議会
議事要旨

日時：平成 23 年 4 月 26 日(火) 14:00～16:00

場所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 12 名

福祉保健部長

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係

地域生活支援センター そら (2名)

配布資料 1：小金井市保健福祉総合計画策定スケジュール (再配布)

2：市報こだいら → 富澤委員

3：ともに生きるまち小平 → 富澤委員

4：東日本大震災支援青空コンサートのチラシ (2種類) → 柘本委員

5：あけぼの福祉会講演会主催 VOXRAY コンサートのチラシ → 矢野副会長

1. 開会

事務局 (藤井係長)	<ul style="list-style-type: none"> ・開催にあたり、配布資料の確認。 ・柘本委員から配布資料の説明をお願いしたい。
柘本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農工大通りにある美容室「キュア」の社長が、自分の美容室と駐車場を活用して地域貢献をしたいと考え、農工大通りを元気にしようという目的から賛同した仲間が集まり活動している。 ・その第一歩として、チラシの内容 (全 4 回) を企画した。青空コンサートとして駐車場にパイプ椅子 40 脚配置予定。地域交流としても障害のある人が多く参加してもらいたい。
事務局 (藤井係長)	<ul style="list-style-type: none"> ・富澤委員の資料については、議事の中でお願いしたい。 ・山田満里子委員より欠席の連絡が入っている。斎藤委員からは、1 時間程度遅れる見込みとの連絡が入っている。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・出席者 12 名により本協議会は成立。 ・議事に入る前に、事務局の異動等を紹介したい。
事務局 (高田係長)	<ul style="list-style-type: none"> ・小俣部長の後任として、本年度より福祉保健部部長に就任した佐久間部長を紹介する。
佐久間部長	～挨拶省略～
事務局 (高田係長)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉課長として、地域福祉課より異動となった堀池課長を紹介する。
堀池委員	～挨拶省略～
事務局 (高田係長)	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の事務局 (障害福祉課・そら) は同じ体制となっている。宜しく願いたい。 ・発達障害関係のオブザーバーが出席する予定であったが、急遽出席が難しくなった。その件に関して、佐久間部長より報告をお願いしたい。

佐久間部長	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に「小金井しあわせプラン」が策定された。市の最上位計画の基本構想の中に発達支援について盛り込んだ。障害者福祉の中に新たに発達障害などの相談支援体制を構築し、周知をはかると共にサービス供給体制の充実に努める、との内容を盛り込んだ。これに伴い、今年度策定する保健福祉総合計画についても発達障害についての取り組みを掲載するという事になっている。そのため、暫定委員として、23年度より、保育課長・子育て支援課長・健康課の保健師の3名にオブザーバーとして出席をしてもらう予定だった。 ・4月の人事異動に伴い、情報共有や今後について再度話し合いを行なう予定。次回の自立支援協議会までに協議をし、一歩進んだ形で発達障害支援についての内容を計画へ盛り込めるよう出席を依頼していく予定。
-------	--

2. 議題

小金井市障害者計画（平成20年度改訂）第2期小金井市障害福祉計画

障害のある人を取り巻く各課題のまとめについての検討（次期計画への反映）

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの作業3回目となり、本日が最終段階になる。課題5、6、2の検証に入る。 ・前回の会議が東日本大震災直後であったこともあり、小金井市でも災害時に対してどのように考えていけばよいのかということが意見交換された。それに伴い、富澤委員より資料提供があった。説明をお願いしたい。
富澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「市報こだいら」の資料参照。裏面には、避難所一覧がわかりやすく掲載されている。このような避難所一覧が障害のある人へ各戸配布してもらえるとういのではないか。 ・二次避難場所には、市民センターや地域センター、小平特別支援学校、障害者センターなどが記載されている。小金井市では、特別支援学校は二次避難所に入っていないとの話を聞いているため、できれば早く体制を整えてほしい。 ・精神障害のある人として自立支援医療の申請者が1000人程度との報告があったが、その内施設利用者は100人程度。施設対応だと周知に限界がある。周知の工夫をお願いしたい。 ・広域避難場所やいつき避難場所については、把握している人が多くいるが、二次避難場所に関してはあまり知られていない。小平市の市報を参考に小金井でも取り組んでほしい。 ・「ともに生きるまち小平」は、平成20年に小平市教育委員会が作成し、小・中学校に直接配布された。障害のある方や高齢者の方へどのように接したらよいのかということがわかりやすく記載されている。残念ながら精神についての掲載は少ないが、このような冊子を地域の教育委員会が作成し、配布してくれるのはとてもよいと思う。ぜひ、小金井の教育委員会でも作成をお願いしたい。 ・資料は、表紙と目次だけのコピー。冊子は前頁カラー印刷となっている。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子が全委員分はないため、これから回覧するのでご覧いただきたい。 ・小金井市にも都立の特別支援学校があるが、避難場所にはなっていない。協定を結べば可能との話だった。小金井市でも実現に向けて検討してほしい。 ・東日本大震災の災害派遣として経験されてきた秦委員より報告をお願いしたい。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3月14日より東京都の保健師班として、宮城県石巻へ現地入りした。 <p>～省略～</p>

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な報告をいただいた。 ・時間の関係もあるため、まとめの検討へと進む。課題5「障害のある人の自立と就労支援」は、就労支援センターの斎藤委員の到着後に協議したい。先に課題6「家族介護者の負担軽減と家族支援」より検討する。 ・まとめP. 20を参照。日中一時支援について意見等はあるか。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の災害で困ったこととして、親御さんが迎えに来られなかったという状況があったと思われる。 ・災害時に通所施設がショートステイ的なものを担う状況も発生するのだと感じた。日頃より、通い慣れた施設がショートステイの機能を担えるよう通常から何らかの準備があると安心なのではないか。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、施設で毛布や備蓄品は常備している。しかし、今回の災害で感じたのは、薬の問題。通所時間帯の昼の分は所持しているが、それ以上は所持していない。災害時に備え、その日の夜と翌日の朝の分だけで構わないので、親御さん管理の元、日頃の持ち物の中に常に入れておくことを徹底するようお願いした。服用している薬については、施設で把握できている。 ・車イスの利用者を何名も二次避難所へ連れていくことはできなかった。そのため施設にとどまる形をとった。施設が壊れるような事態がなければ、施設で待機する方針にした。動くことで見失う可能性もある。 ・水道について、タンクがある施設は断水しても水は出る。しかし、停電になれば汲み上げられない。逆に、直結であれば停電になっても水は出るが、断水になると出ないとそれぞれに長所と短所がある。施設がすべて同じ形ではなく、両方の形をとっておくことでうまく対応できると感じた。今回のことで、施設整備を見直すきっかけともなった。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の問題は重要。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その日一晩何とかかなれば、翌日処方されている薬がわかれば保健センターで対応してもらえると聞いている。薬の問題が一番気になった。 ・バラバラに行動していた時に、電話がつながらず連絡が取れなかった。携帯が通じなくなった時に、情報を得ることができなかった。 ・利用者の内、都心の仕事先で連絡が取れなくなり、徒歩で戻る可能性が高く心配したが、就業場所から一晩泊めてもらうことができ、安堵したケースがあった。あの時、泊めてもらえなかったら行方がわからなくなっていたかもしれない。情報を判断できない利用者について、どのようにしていったらよいかということに課題を感じている。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・施設などに対し、災害時に備える法律的な指示はあるのか。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3日分の備えをするよう指示が出されている。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・3日分×利用者の人数分となっているため、ギリギリの備蓄量。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食を用意して、30年。その間一度も使用するような事態は起きなかった。ただ、今回の件をきっかけに再認識しなければならないと思う。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側で指導指針のようなものや民間の事業所と話し合いをするような機会はあるのか。
佐久間部長	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いという形では実施していない。課題であるとは感じている。 ・避難所として位置づけるには、耐震の構造上について問題がないか確認する必要がある。安心して避難できる場所として確認が取れ、受け入れ可能となれば、備蓄の問題や防災無線を用意し、連絡が取れる形にするなど考えられる。

	整備はこれからやっというところ。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関しては、行政から指導が入るため、それなりの準備はしてある。しかし、心配なのは町内会への周知について。町内会へ貸している倉庫はあるが、町内の住民がどこまでその中身について知っているのか疑問。町内会の会長を集めて協議したりしているのか。 ・中央町会の際は、かなりの防災備品をそろえていた。しかし、小さい倉庫しかない町会ではどうなのか。 ・近所の単身の高齢者にも配慮しなければならないような地域性もある。 ・先日の地震の際、近所の方が生活実習所の庭に避難してきた。そのような状況を見ると、避難する場所として考えられていると感じる。
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中にどこもつながりのない方がいるということをしつかり認識しておく必要がある。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と町内会がうまく連携して動いてほしい。それぞれがバラバラに動くのはもったいない。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に対して、行政はどのような関わりを持っているのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課が担当し「災害時要援護者対策の手引き」を作成した。流れとしては、要綱に沿って、要援護者における定義にあてはまる対象者を大枠で選定。その対象者についての名簿を民生委員と共有し、民生委員の協力を得て戸別訪問をする。 ・ひとりで逃げられない方が対象で、要援護者が自ら避難誘導支援者を親しい隣人の中から二人探してもらうことが原則となっている。しかし、地域とのつながりがなく、避難支援者がいない場合においては、民生委員などと協力し、町内会などの防災会を巻き込んで検討することになっている。 ・モデル地区として貫井南で開始しようとしている。しかし、自治会の問題もあり、なかなかスムーズには進まない状況ではある。自治会の了解を待っている状況。 ・要援護者の情報を支援者2名と合わせ、3者で共有し、避難支援プランを作成する。個人情報について行政は、審査会を経て了解を得ているが、町内会等になると個人情報の取り扱いは本人同意を経て、情報共有の形を取る。地域で見守る体制がようやく動き出したというところ。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて町会の重要性を感じる。グループホームの宿直は1名の職員で、6名の利用者を支援しなければならない。場合によっては、近所の助けを得なければならないこともある。そのようなことを考えると、町内の方々との関わりが大きく左右すると感じた。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市内の町会は活発に活動しているのか。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・活発なところは活発だが、全体的ではない。
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日、町会の集まりがあり、今回初めて会長から要支援についての雛形の用紙が配布された。どこかで発信があったものと思われる。少しずつ動き始めている感じがする。 ・一番近くの住民が大事になる。地域のネットワークが重要。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのネットワークづくりは、自助努力だけではなかなか難しい。行政の仲介は必要。
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の気持ちを高めるためにも、今後の行政の働きかけに期待する。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にどれだけ貢献するのかという意識は必要。しかし、まだまだ弱い。公

	<p>的機関が働きかけることで意識が変わってくるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイは、人手不足や単価の低さなど、実施すると赤字になってしまう状況があるという報告があったが、その辺りについて協議したい。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・精神のショートステイを設置してほしいという要望が出ているが、現在運営しているグループホームの施設を利用するのは難しいというのはどのような理由なのか。富澤委員の意見を聞きたい。
富澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施設規模が小さいため、いろいろなことに対処しきれない。 ・職員との関係ができていない利用者を受け入れることでいろいろなリスクが生じる。何かトラブルが起こり、そのひとつの出来事で施設自体が地域から受け入れてもらえなくなるような事態にもなりかねない。 ・ひとつづら何かがあっても大丈夫というような法人の規模でなければ、退院促進支援事業に関するショートステイを実施することは難しい。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム活用型ショートステイはどうか。
富澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・家族から要望が出ているショートステイは、障害者センターで実施しているようなレスパイトケア的なものであり、退院促進支援事業とは異なるもの。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような点が異なるのか。
富澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・退院促進のコーディネーターの調整によつての利用となる。家族と同居しているの利用とは内容が異なる。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターがいれば可能ということか。
富澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうではない。空室の確保、職員の確保が難しい。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・空室にしたショートステイ用の居室にイレギュラーな利用があると、それだけでグループホームを普段利用している人が不安定になってしまう場合もある。安定した生活を送ることができなくなる恐れも生じる。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム設置してほしいというのはどのようなことなのか。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・要望はあるが、既存の中では対応しきれない現状がある。生活実習所では2床確保しているが、単価の低さもあり職員の確保ができない。そうすると運営ができないということになる。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の確保や単価の改善などがあれば、可能ということなのか。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのための十分な施設整備がなされれば、それは可能だと思う。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイの施設を新たに設立することは難しい。既存の施設を活用する方が現実的なのではないか。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・入所施設の利用が一番現実的。しかし、利用者を受け入れれば受け入れただけ、その事業所は赤字になってしまう現状を改善しなければならない。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・通所とショートステイを一緒に実施しようとする、勤務がローテーションになる。そうすると、日中活動に穴が空く形になってしまう。小金井はその体制をとっているが、府中は日中に穴が空くのは困るという保護者の意見もあり、すべてパートで賄っている。どちらのやり方がよいのか非常に悩ましいところ。 ・不安定な利用者がいた場合に職員を配置しなければならない。そこをパートの方に任せてよいものかという考えにもなるし、日中をパートの方に任せるといふのも調整が必要。2床で職員1人というわけにはいかない。とは言え、2床で職員2人の配置では困ってしまう。5床ぐらあり、そこに職員2人を配置し、緊急時にも対応できるようにしていかなければ難しい。 ・グループホームのみならず、日中活動も含め、人手の確保が非常に困っている。

伊藤会長	・待遇の問題によるのか。
中村委員	・待遇以前に、希望する人が少ないように感じる。
矢野副会長	・待遇の問題も大きいのではないかと。
中村委員	・人材をうまく活用していければいいと思うが、お互いにできていない状況のように感じる。
伊藤会長	・精神の場合、家族が休める場が必要との話もあったが、この件についての可能性は低いという回答だった。他市の調査はどのような状況か。
事務局	・未実施。
伊藤会長	・定例会を行なうための場所の確保についてはどうか。
秦委員	・家族会の設立に関しては、保健所も深くかかわってきた。当時は、保健所の一室を開放していた。治療共同体として、家族の協力なしには、精神に障害のある方の支援は成り立たない。難しい状況はあるとは思いますが、行政が積極的に会場の確保をお願いしたい。
佐久間部長	<p>・保健センターを利用して、小金井市の家族会である「あじさい会」の定例会が開催されていた実態は把握している。</p> <p>・これまでの保健センターは、保健所機能として動いていたが、主に子どもの虐待についての先駆的事業となる子ども家庭支援センターが併設されたことにより変化している。また、保健会場で実施していた検診事業も保健センターで実施される形となっており、保健センターの会議室の確保が難しくなってきた。</p> <p>・今までの経過もあるため、行政使用についての調整は行なっている。ただ、家族会は「あじさい会」だけではないため、公平性を期すために、すべての定例会を行政使用として認めるわけにはいかない。その辺りについては、理解をいただきたい。</p>
富澤委員	・できればこれまで通りお願いしたいという意味で要望をあげた。家族の高齢化もあり、駐車場の利用や固定された会場でなければ難しいという状況は現実的な問題としてある。
伊藤会長	<p>・心身障害者介護人派遣事業についての検討に入る。</p> <p>・あらかじめ登録をする必要があり、利用しにくいとの話もあった。</p> <p>・介護者の具体的な要望を問える質問について、アンケートには盛り込まれたのか。</p>
高田係長	<p>・心身障害者介護人派遣事業は、事業所が少なかった頃に生まれた助け合いの制度。現在は、事業所等も増えている関係で、利用者が減少していると思われる。</p> <p>・市としても、資格のない人が障害のある人を支援するという形に不安はある。保険はかけている状況ではある。</p> <p>・共助の意味合いが強い制度。縮小されていく制度のように感じる。</p>
森田委員	・給付時間の25時間を超え、もう少し支援が必要となる場合、ヘルパーに介護人派遣の登録をしてもらい支援してもらうことは可能なのか。
事務局（高田係長）	・事業所で働いている人を登録することになる。23区で実施している区もあるが、多くはない。
森田委員	・以前は、難しいとの回答だった。
事務局（高田係長）	・この事業は、上限がない。しかし、そのような活用の仕方をするのであれば、上限の設定等検討しなければならない。
矢野副会長	・現状、負担の生じない全額給付の形。

伊藤会長	・制度の見直しが必要になる。あまり知られていない事業のように感じる。
矢野副会長	・精神や知的の人は知らないのではないかと。うまく活用するとよいのかもしれない。 ・市としてどのように運用していくのか検討してほしい。 ・サービス給付のアドバイスに利用できるとよいのではないかと。
森田委員	・考え方が決定すれば活用できる。
伊藤会長	・課題5「障害のある人の自立と就労支援」の検討に入る。
斎藤委員	・今年度より職員体制が増員となった。常勤が3名体制に加え、地域開拓コーディネーターという形で非常勤が1名配置された。 ・障害のある人が地域の中で働く環境づくりを進めることを今年度は重視していきたいと考えている。 ・定着支援と発達障害の支援が大きくある。会社内の調整が必要。 ・就労するためには生活の安定が不可欠。生活支援の必要性が高い。
伊藤会長	・生活支援については具体的にどのように考えているのか。
斎藤委員	・支援センターとの連携を取りながら、バラバラに動くのではなく支援していきたい。まだ、お互いをうまく活用できていない。連携の必要性は感じているが、まだ話し合いが持たれていない。同じ方向性を持つことができていないと感じている。
伊藤会長	・その辺りについて、「そら」から意見をお願いしたい。
事務局（熊倉）	・「こころ」から依頼される生活準備の段階の方と「そら」の生活準備の段階は全く異なる。「そら」は、まず30分交流室を利用するところから始まっていたり、交流室には入れないため、スタッフとの面接を重ねながら交流室の利用へとスライドしていくような支援を行なうなど、施設利用に至る前の部分の支援が大きい。ようやく地域へつながりを持ち始めた層への支援が割合を大きく占め、その部分で多くの調整を行なっている。 ・人員体制的なこともあり、就労準備をしていく段階にいる方たちへの生活支援については、細かく一緒に考えていけるような時間はなかなか作り出せない状況。
伊藤会長	・何かアドバイスできるノウハウのようなものはあるか。
事務局（熊倉）	・生活を丁寧に見直しながら、課題となっている部分を見ていく作業を行なっていないと、その人のどこが問題になっているのか見極められない。 ・「就労したい」との希望があったとしても、その部分だけではなく交流室の日々の利用からその人の状況を見極める時間を大事にしている。 ・面接で個人の課題を見つける作業は、丁寧に時間をかけてやっている。だからと言って、そこまで手をかけないで、課題を見つけてほしいといわれても継続的に関わりを持っていない人への支援は難しい状況ではある。 ・「そら」は、交流室があることで見極められる部分もある。「こころ」にはその機能ないため、その部分については、交流室の機能を活かす方法も検討できるが、まだ細かい部分についてお互いの現場で整理していく必要がある。
伊藤会長	・相談は「そら」へという形ではなく、お互いが情報共有する中でヒントなどを見つけれられる可能性もあるのではないかと。
事務局（熊倉）	・「こころ」の協力を得て、就労支援プログラムを実施していたこともある。連携していないというわけではない。お互いの接点は、これからというところ。
斎藤委員	・「そら」の登録者と、「こころ」の登録者の狭間にある人のサポートする場所

	<p>がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労を目指した生活支援の場がない。今の状況で連携をとられても難しい。システムの必要性は感じている。 ・就労と生活は切っても切れない。就労するための生活をどうするかということについては、「こころ」で支援している。もう少し整理できてくれば、違うのではないか。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・公共機関との連携とはどのようなものか。
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の先生との連携は少しずつ増えてはいるが、定例化はされていない。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・就労のパイプとなるのは、「こころ」だとは思う。就労が増えれば、定着のための支援が必要となり、当然サポートする職員も必要となる。 ・小金井市では、最大何人規模でジョブコーチの支援体制が必要かという青写真も必要なのではないか。生活の見守りも必要。 ・情報の一元化をどのようにしていくのかという部分もある。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の整理と生活・仕事を統一的に見守っていく必要性について話があがったが、時間の関係上、次回に検討をお願いしたい。

3. 次回会議の開催日時・内容等の確認

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回会議について、事務局よりお願いしたい。
事務局（熊倉）	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は、5月11日（水）14:00～16:00。次回の会場は、小金井商工会館2階小会議室にて開催する予定となっていたが、現時点で欠席の連絡が数名入っている。会議開催のためには、過半数以上の出席が必要。5月11日（水）に出席できる方は、挙手をお願いしたい。
一同	<p>（過半数上の挙手）</p>
事務局（熊倉）	<ul style="list-style-type: none"> ・過半数を超えているため、予定通り5月11日（水）にて開催を決定する。小金井商工会館は、「萌え木ホール」のある建物の2階となっている。 ・原案の作成依頼をジャパン総研に出すことになっている。これまで協議会で検討されてきた内容のまとめを6月中旬までにジャパン総研に提出する必要がある。 ・5月末の自立支援協議会までに、これまで検討してきた内容のどの部分を重要項目として計画にあげていくのかということを検討いただきたい。限られた時間の中ではあるが、宜しくをお願いしたい。

4. その他

(1) 事務連絡

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、事務連絡等お願いしたい。
柘本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農工大通りに「ゆずりは」という児童養護施設等退所者のアフターケア相談所ができたので紹介する。
事務局（熊倉）	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットが1部しかないため、次回会議でコピーを配布する。 ・第11回・第12回の議事録（仮）の修正は、5月9日（月）までをお願いしたい。